

令和6年度 第4回 曳馬小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年2月7日（金） 14時00分から15時30分まで
- 2 開催場所 曳馬小学校 多目的ホール
- 3 出席委員 飯尾忠弘、川井啓介、中村佐知枝、戸田京子、荒巻太枝子、黒田淳二
- 4 欠席委員 鈴木香代
- 5 オブザーバー 伊藤成明（曳馬協働センター）
- 6 学校 竹内孝夫（校長）、古橋孝文（教頭）、鈴木正委（主幹教諭：CS 担当職員）
内堀邦子（CS ディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 内堀邦子（CS ディレクター）
- 9 議長選出

司会から議長の選出について委員に意見を求めたところ飯尾会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- ① 「学校関係者評価」について（鈴木主幹教諭）
- ② 「来年度の学校運営の基本方針」について（竹内校長）
- ③ 「学校運営協議会自己評価」について（飯尾会長）

11 会議記録

司会の古橋教頭から、委員総数7人のうち6人の出席があり、過半数に達しているため会議が成立している旨の報告があった。

① 「学校関係者評価」について

学校関係者評価について鈴木主幹教諭から説明があった。（別紙参照）

児童、保護者、教職員の評価にギャップがある等、各委員から意見が挙げられ、学校側からのコメントがあった。※

最後に、飯尾会長の発言にて、意見に基づいて今後の改善方針と学校関係者評価をまとめることで、締めくくられた。

※以下、各委員からの意見と学校側からのコメント

- ・ 教職員と保護者の評価結果に大きなギャップがあることは問題（戸田委員）
- ・ 今後、児童、保護者、教職員の評価のギャップを埋めていくことが大切（竹内校長）
- ・ 情報共有できているとのことだが、学校評価の基準はあるか（荒巻委員）
- ・ 学校経営構想で指針を示しているが、基準はなく感覚に頼っている。基準となる指針を示していきたい。教職員は学校経営方針で基準を理解し、共有をしていきたい（竹内校長）
- ・ 第2回の運営協議会で、教職員が評価基準を共有していくことは理解していた
(飯尾会長)
- ・ 児童、保護者、教職員の評価にギャップがあっても良いと思う。例えば、保護者の立場

では、質問にどう答えて良いかわからない迷いが数字に表れている。特に記述については答え難い質問があった。保護者は学校での子供の様子を知らないため、学校での様子に関する質問は答え難い。アンケートの質問方法に改善の余地があると思う。補足説明があったら良いと思う。数字のばらつきが大きい場合は、評価の最小値と最大値の評価に注意を払って問題を検討していく必要がある。（黒田委員）

- ・ アンケートの質問の意図が伝わるよう改善していきたい（竹内校長）
- ・ 子供は一生懸命やっていると評価しているのに対し、教職員は厳し目に評価している（川井委員）
- ・ 教職員は評価基準をもっているが、子供には基準が浸透していないため、主観で判断している。今後、評価基準を子供へ浸透させることが大切（竹内校長）
- ・ 発表を通じて、タブレット学習により表現力や伝える力は向上したが、資質能力を育成していく点は改善の余地があると思う。自ら学び、探求し、理解し、達成感をもてるように改善できると、子供や保護者の評価はさらに上がると思う。（戸田委員）
- ・ 保護者の家庭学習の評価は厳しいと思う。タブレットでの探求活動を見て、学習していると感じていないことが影響している可能性がある。（黒田委員）
- ・ 学校評価の中で評価が低かった挨拶について、現在、挨拶運動を行っていると思うが他の方法はどうか。（黒田委員）
- ・ 他校では健全育成会などの活動があるが、子供自身が現状を認識して自主的に児童会活動で改善していくようにしていきたい。（古橋教頭）

② 「来年度の学校運営の基本方針」について

来年度の学校運営の基本方針について、竹内校長から説明があった。（別紙参照）

戸田委員、黒田委員より詳細説明の要望があり、更に詳しい資料に基づいて、竹内校長から説明があった。（別紙参照）

資料をもとに来年度の基本方針について全員一致で承認となった。

来年度のいじめ防止基本方針について、竹内校長から説明があった。（別紙参照）
いじめアンケートは年3回行う。昨年度と大きく変わっていない。

※以下、各委員からの意見と学校側からのコメント

- ・ 学校に第三者委員のような立場の人がいたらどうか。現状はどうか。（黒田委員）
- ・ 現在ソーシャルワーカー、スクールカウンセラーがいるが、相談が多く予約がいっぱいで気楽にできない状況。ハードな仕事なので人材確保が十分ではない状況。
（竹内校長）

資料をもとに来年度の基本方針について全員一致で承認となった。（飯尾会長）

③ 「学校運営協議会自己評価」について

学校運営協議会自己評価について、飯尾会長から報告があった。

※以下、各委員からの意見

- ・ 今年度の運営協議会にて、学校運営の基本方針に沿った教育活動充実につながる学校支援活動につながる熟議を進めることができた。（飯尾会長）
- ・ 必要な情報は地域活動を通じて各々発信することができた。（飯尾会長）
- ・ 支援活動を充実させるためには、支援コーディネーターが必要。人材を紹介してもらいたい。（飯尾会長）
- ・ マンパワー不足を学生ボランティアで解消できることはないか。（荒巻委員）
- ・ 本日の参観ができなかったが、学校での子供の姿を参観し、今後の熟議に活かしていきたい。（川井委員）
- ・ 充実した支援活動を行うためコーディネーターが必要だと思う。（黒田委員）

その他報告事項等

- ・ 夢育やらまいか事業の予算は地域連携事業や総合的な学習の時間における講師やボランティア活動などの謝礼に使用した旨の報告があった。
- ・ 令和7年度に校舎の小規模改修を行う旨の報告があった。
- ・ 次回会議は、5月2日(金)14:00～15:30に多目的ホールで行う旨の報告があった。